

○議長（茅沼隆文）

日程第2 認定第3号 決算認定について（下水道事業特別会計）の質疑を行います。

なお、特別会計は、会計ごとに質疑を行っていますので、分割しておりませんから、ページの通告はいたしません。質疑は歳入歳出全般にわたり行います。質疑をされる方は、ページを明示してください。それでは質疑をどうぞ。

1番、佐々木議員。

○1番（佐々木 昇）

1番、佐々木昇です。決算書218、219、説明書の74、75ページの流域下水道費の中の流域下水道事業維持管理費負担金のところでちょっとお伺いします。この負担金ですけれども、流入量に応じて負担するというような説明がありますけれども、この辺、もうちょっと詳細に、どんな感じであれされているのか。また、ほか3市6町ですかね。割合あたり分かれば、教えていただきたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

上下水道課長。

○上下水道課長（熊澤勝巳）

流域下水道の維持管理負担金ですけれども、こちらにつきましては、2年前、計画流入量というものがまずあります。そちらにつきましては、毎年計画されている流入量というものを、流域に報告しています。そちらの2年前の計画流入量に対して、実際に、平成27年度流入した量という部分の差を加味して、流入割合というものを計算して決めております。

平成27年度につきましては、各市町の流入割合ですけれども、小田原市につきましては、約45.19%、秦野市が1.85%、南足柄市が19.21%、二宮町が6.39%、中井町が3.36%、大井町が6.25%、松田町が3.31%、山北町が8.57%、開成町が5.87%でございます。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木 昇）

すみません。これまた確認させていただきたいのですけれども、この流入に係るメータみたいなというのは、開成町としては、開成町、小田原につながっていると思うんですけれども、管が。その境目ぐらいのところに全部メータがついているというような、開成町の流入量というのは、どのようなはかり方をされているのか、ちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

上下水道課長。

○上下水道課長（熊澤勝巳）

開成町の下水道の流入につきましては、流入メータというのが2カ所ございます。一つは、平成26年度に被災しました、源治橋のたもとのところに1カ所、もう1カ

所が、県道御殿場大井線のところの、確かカラオケ屋さんがあると思いますけれども、そちらのところの交差点近くに、流域につながる管として、メータが2カ所ありまして、それぞれそこで流入量というものはかっております。

○議長（茅沼隆文）

ほかに質疑ございませんか。

佐々木議員。

○1番（佐々木 昇）

本当はちょっと小田原との境目とか、そういうところじゃなくて、数も2カ所ということですけども、その辺、しっかりとした開成町の流入量というのが確保されて、計算されているのか。ちょっとその辺確認させてください。

○議長（茅沼隆文）

上下水道課長。

○上下水道課長（熊澤勝巳）

開成町の2カ所の流入量というのは、それぞれの流入メータのところ、区域に分けて、管が接続を全てされております。そちらで、最終的に流域の幹線が富士ゼロックスのところにあります、大きな道路のところにありますので、そちらに接続するところの最終的なところに流入メータをつけておりますので、開成町の中の全域のところは、その2カ所で全てはかれるというふうになっています。

○議長（茅沼隆文）

ほかに。

11番、菊川議員。

○11番（菊川敬人）

11番、菊川です。相対的なところでお伺いたします。27年度は、5.82ヘクタール整備されておりますが、27年度末の下水普及率、それと整備面積、それと水洗化率この3点をお伺いたします。

○議長（茅沼隆文）

上下水道課長。

○上下水道課長（熊澤勝巳）

御質問にお答えします。平成27年度末の下水道の普及率につきまして、こちらは人口ベースですけども、75.3%、整備面積としましては、244.7ヘクタールです。水洗化率につきましては、こちら人口ベースでいきますと、95.9%になります。

○議長（茅沼隆文）

ほかに質疑ございませんか。

2番、山田議員。

○2番（山田貴弘）

2番、山田貴弘です。217ページですね。歳出の事業費について、お聞きしたいと思います。整備率が81.1%と説明の中でもらった中で、ちょっと気になること

ろが、この事業の中で、町道243号線、これは白鷗病院の手前のところの管路敷設をされたと思います。ここは調整区域ということで、予算のときにも、そこら辺の追及というのはした手前、当然、これは事業が27年度に完了していて、管を敷設したことによって、この接続というのがどういう状況になっているのか、報告をしていただきたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

上下水道課長。

○上下水道課長（熊澤勝巳）

町道243号線の整備につきましては、議員のおっしゃるとおり、白鷗病院の接続を目的に、平成27年度実施しました。現在、白鷗病院自体は、まだ、接続工事というものはしておりません。こちらにつきましては、白鷗病院と協議をして、早々に接続をしていただけるというお話を受けていますけれども、具体的にいつという工事の予定というのが、まだ聞けない状態しております。それ以外につきましては、約4件の方が接続という形で可能になっておりますけれども、2件の方は、接続の工事依頼ということがきております。残りの方につきましては、まだ、接続がされていないという状況でございます。

○議長（茅沼隆文）

山田議員。

○2番（山田貴弘）

2番、山田貴弘です。やはり基本は市街化区域に整備するというのが基本なんです。こういうイレギュラー的な調整区域の部分に管を入れるときというのは、初めの前倒しの中で、白鷗病院、病院に接続するというような答弁をいただいている関係上、それは管が入った時点で、即接続するような誘導の営業というのですか、指導というのですか、そこら辺はもうちょっとやるべきではなかったかなと思っているんですが、そこら辺の部分で、即接続をされなかったというのは、工事をする前の事前の調整が悪かったのか。終わった後、実際、ふたをあけて見て、これを接続すると、費用負担これだけかかるんだよというのがネックになったのか。民間と違って、来ました、じゃあ接続しますというのは、事業主体というのは、年度ごとの予算はある程度組んだ中で動いていると思うんですよ。そういう調整というのは、27年度に工事をしたのであれば、26年度に事前調整した中で、27年度で完成するから、接続する手続きをしてくれと。それにあたっては、見積を事前にとって、いくらかかるという、やはりそういう流れだと思いますので、今後とも、白鷗病院に限らず、そういう事業主体、大きな面積の整備率の部分であげたりとかするための大きなポイントになるところというのは、事前に行政側がもう少し動くべきではないのかなと、今回の決算見て感じていますので、そこら辺の答弁、よろしくをお願いします。

○議長（茅沼隆文）

上下水道課長。

○上下水道課長（熊澤勝巳）

議員のおっしゃるとおり、下水道の接続、特に大きな施設につきましては、町も工事をやる前に、工事を進める理由ということと、それに伴って接続をするかどうかという有無に関しては確認をとっております。今回、白鷗病院ということですが、白鷗病院につきましては、工事をやる前年度には、整備に伴う下水道の接続の有無というもので、接続をしますという回答をいただいた中で、予算化をさせていただいたという体があります。

ただ、その中で一応接続のためにはどういうものが必要だということにつきましては、工事前には全て説明は終わっていますけれども、そちらで具体的に白鷗病院が、いつやるという具体的な話を、こちらでは把握をされてなかった。とりあえず、白鷗病院につきましては、下水道が整備されたら早々につなげたいという御希望があったという部分が、こちらでは、確認はしていたんですけれども、そちらに時期的なもの、細かくその辺の調整をしていなかったというのが事実でございます。ほかの施設に関しましても、大きな施設の接続につきましては、やはり接続するために工事、莫大な費用がかかりますので、まずそちら、接続するかどうかの確認というものは、前年度、事業を計画する前には、確認はさせていただいている状況でございます。

○議長（茅沼隆文）

山田議員。

○2番（山田貴弘）

2番、山田貴弘です。そこら辺の説明は理解するところなんですけど、しかし、工事費というのは莫大な費用がかかっているというのは認識していると思います。ぜひともそれはつくって満足するのではなくて、接続してもらって、初めて使って価値があるものなんですから、そこら辺はもうちょっと注視するべきではないのかなという。

また、違う観点から聞くんですが、今、課長答弁で答弁もらっているんですが、上司として、部長として、そこら辺の管理をどのように徹底しているのか。当然、これは現場の中での管理というのは、課長名義、やられていると思うので、やはり全体把握、費用対効果を考える部分では、部長の存在というのは大きいのかなという部分では、どのような指導をして、今回27年度に設備投資した事業に対しての費用対効果というものを見出し、財源確保に努力しているのか。部長答弁をいただきたいと思えます。

○議長（茅沼隆文）

まちづくり部長。

○まちづくり部長（芳山 忠）

山田議員の御指摘というのはごもっともだと思います。当然、下水道事業というのは、これは設備をしても、使っていただいてなんぼの設備でございますので、当然、その設備に見合った、コストに見合った収入をいただくということが前提の事業でございます。

したがって、今回のケースにかかわらず、ほかの事業所のケースにつきましても、接続の状況等について、できる限り、私自身も話の中に加わるということによって、

接続を推進すると。いつやるのかということについては、かかわってきてはおります。

今回の件につきましても、できるだけ速やかに接続をしていただくということについて、努力をしていきたいと思っておりますので、状況によっては私自身、また当該事業者さんに伺って、その辺の話をさせていただくと。また、今後の事業についても、同様に対応してまいりたい。それによって、下水道事業が、もともと水道と違って、完全に独立採算でいけるといった事業ではない部分もございますので、できるだけかかるコストはコストとして、得るべきものはきちんと得ていくという中でコストの削減を図っていきたいと考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

ほかに質疑ございませんか。

（「なし」という者多数）

○議長（茅沼隆文）

質疑がないようですので、認定第3号 決算認定について（下水道事業特別会計）の質疑を終了いたします。